第１回南風原町地域福祉推進計画策定委員会　会議結果

日時：令和５年７月５日（月）
　　１０時３０分～１２時
場所：３階　庁議室

１．町長より、委嘱状の交付

２．各委員の自己紹介

３．南風原町長及び南風原町社会福祉協議会会長より挨拶

４．正副委員長の選任
（委員長：おきなわ地域福祉研究会会長・上地武昭委員、副委員長：南風原町法人保育園連絡協議会会長・大城昌信委員）

５．南風原町長より、諮問

６．審議
委員長：第三次南風原町地域福祉推進計画の概要について、事務局の方から説明をお願いします。

（事務局より資料①説明）
委員長：１番目の第三次南風原町地域福祉推進計画ちむぐくるプランの概要の説明であった。ここで質疑を受けていきたい。意見・質問あれば挙手してもらいたい。

委　員：１ページの「つながり」・「支え合い」とは、例えば・・・とある。ここで一番右側の方で、地域で安心して暮らすためには、「つながりも大切」とあるが、「つながり」はなくても OK ということか。

委員長：「つながり」「が」大切というのか、「も」というのは、別にもあるんだよと。こういう言葉遣いしてるが、ちょっと小さいことですが、教えてください。

事務局：「も」という表現は福祉サービスや教育、その他、医療保険、道路・施設、つながりという部分で、「つながり」「も」同様に重要ということで示している。地域福祉を語る上での「つながり」という部分が大きなキーワードになることから、その誘導として、つな

がり」も大切だということを強調し、表現している。

委員長：今の説明でよいか。

委　員：はい。いい説明である。

委員長：ほかにあるか。

委　員：隣近所のつながりや支え合いつながりっていうのは、やはり地域に住んでいたら、自分の周りはわかるが、アパートに入ってきたら、ちょっとわかりにくくなる。そこで、今、地域で私たちは、全部個別で回ろうという計画をしている。1月中には個別で回って、福祉協力員も一緒にですね。民生委員は、全家庭、福祉協力員は、自分の近所を回る。

委　員：これをやって、誰一人取り残さない、しないというのが、できるかなっていうところか。

委　員：そのような感じで気になっている。

委　員：自治会の加入率が減って、自治会に加入していないアパートなど、どういう人たちが住んでいるっていうのは、把握できない。どんどん自治会の活動にみんな来て欲しいが、なかなか加入してないところが多いので。具体的なつながりっていうのが、自治会としては厳しい状況。

委　員：１ページにある「自助」「共助」「公助」は大事だなって思う。文章の末端ですけれども、このように三角で書いてあるからには、役場、社協の中でも住民の皆さんと意識をもってかかわりを持っていただけているんだろうなと。職員教育もこの資料でやってもらいたい。
地域の子供会、女性会、徐々に活動がちっちゃくなってきて、活動が見られなくなってきている。参加する人を、細々と一本釣りで声をかけながら、地域活動や手助けをするようなグループを作ってっていう形をとっている。ですが、だんだんその活動をするにも、年を取ってくる。お年寄りと子どもたちとの関わりもなくなってきてしまう。小さいころからの活動参加のために、自治会の加入を増やすというそのＰＲが必要。
三角形のところでは、行政は忙しいと思うが、全体が一つになること、リーダーになってくださる役場行政の職員の方にもお願いしたい。

事務局：誰一人取り残さないということ、区長の立場からの自治会加入についてあった。各論については2回目の方でまた触れていきたいと思っている。アンケートの中で、ｐ65、自治会活動でボランティアを参加してますかというところ、参加したことがない57.5%で、参加しているは17%という、本当に現実を踏まえたアンケート回答が出てきてい

る。その一方で、実際、参加していない理由も聞いていて、「自分の生活でいっぱいだ」と、これが 4 割で、「活動内容がわからないから」が 20%、「一緒に参加する仲間や知人がいないから」は 18%ある。「体力や健康状態により」は 16.8%であり、やはり何らかの個人的な理由があるんですが、全く興味がないというような回答は 14.7%とわかりました。

参加したくない人より、参加したいという回答の方が多い。それはどういうところでかというと、安全安心に関するところが、やっぱりみんな興味がある。そういうところから、支え合いのところをやれたらいい。PTA とか青年会とか、地域活動といったところが南風原町で重要なところ。しかしそれに関わってない方も多い。一番上に役場とか行政機関がありますよっていうところもあるんですが、真ん中の位置付けで、第 2 層という位置づけを示している。第 2 層はどういうものかというと、自治会とか地域とか、本来、何らかの目的を持った集まりなどの集団という位置付けで考えている。これは何が重要かというと、私は宮平だから宮平の自治会に入らなければ・・・というような括りではなくて、南風原町として、安全安心に、興味があるとか、災害などについて興味があるというのは、一定数いるっていうのがわかっているので、こういった部分からつながりを作っていこうというような計画の方向性を今持っている。

事務局：地域福祉のイメージ図について、皆さんにお話ししようと思う。第３層は一番小さい小地域という考え方、第１層は町全体、第２層は、中学校区を圏域として国は考えている。しかし、私たち南風原町は規模が小さい。中学校区としての第２層はいらないのではと考えた。地域にこだわらない、目的を持って集まった人たちの集団を第２層という考え方。そこに私たちでアプローチをかけていこうと。自治会を単位とした活動というのは、やはりつながりの単位としてどうしても必要である。ここを維持していって、参加を下げさせないという取り組みも必要になってくると思う。

委　員：いつも思うのは、誰一人取り残さない地域社会をやる前に、基本的なのは、家族が基本になるのかなと思う。アンケートにある意見要望がある。住民の方の関心について、見ていくことが必要だと思う。

委員長：これについてコメントはあるか。

事務局：地域福祉について、学校区圏域の設定は前回計画で、第２層の圏域は省いて、１層と３層として福祉圏域をとらえた。第３層は自治会が単位となる。加入している、していないという状況があるので、加入していない方の地域福祉活動はどうなるか、届かないところもある。第２層の地域福祉プラットフォームで、関心のあることについて議論していくことで、自治会にとらわれず福祉課題を解決していく、そういうことである。これ

を進めていく中で、やはり地域自治会の重要性も再認識している。ただ自治会加入が下がってきている。地域福祉プラットフォームでの、自治会参加者以外の方のための場所も必要だと思っている。基礎組織としての自治会は必要という意識は持ってもらって、第２層があるからそこが弱まってもいいということではない。避難場所は公民館だったり、防犯灯設置運営など考えると、自治会は大切である。第２層と第３層のことが両方維持されるようにと考えている。

委員長：大まかな概要説明であった。次に進む。第２期計画の令和４年度の評価について説明してください。

（事務局より資料②－１、②－２説明）
委員長：説明があった内容について質問等あるか。

委　員：社協はいろいろな形でやっている。すばらしい。いつも笑顔で対応してくれる。他の市町村でやっていないことを南風原ではやっている。コロナがあっても、基準を守って開催する。リーダーが責任を取る。むしろ行事をしない方が、この３年間で、参加しないと運動機能が低下して歩けないとかなっている。社協は大変だと思う。状況を見ながら、大人数だとどうしようかとかやってくれている。

委　員：ミニデイを見ているが、ミニデイが休みの時は、毎日ゲートボールをやった。コロナが蔓延しているときも、外だから、ずっとやっていた。それで体力もつくし、認知症予防にもなる。認知が進んでいる人は、包括センターにお願いして、訪問してもらっている。出来るだけ高齢者を外に出すようにしている。体調が悪い時は休んでもらいながら。元気な人は楽しんでいる。出来るだけ参加させたいと思う。
あいさつ、というのがあるが、子どもたちのあいさつをやっている。防災との関係で、学校では不審者がいるからあいさつしないようにしているとか、矛盾するところもある。見守り会も老人クラブの中にある。私たちがやっているのは、計画の中で動いているなというのを実感している。今までやってきたものを通して、あいさつ、これが一番いいなと思ている。防犯の面からもあいさつ、これをこどもたちにも教えていく必要がると思う。

委　員：こちらも老人会が元気である。自治会は綱引きは開催できなかったが、敬老会、獅子舞交流会など開催した。参加者は老人会の人が多い。ここに何とか子どもとかＰＴＡとか、老人会とつながるような行事が出来たらなと思う。

委　員：福祉の継続、福祉は何かというところから始まるが継続されている、社協は地域行事に、

地域の相談にも指導してくれる。コロナがあっての判断も難しかったと思う。やれる方向に考えているのが、よかった。

委　員：社協の方は、地域を見て、コロナでできなかったことがあるということであるが。

委員長：役場からコメントはあるか。

事務局：やったやらなかったで、社協の評価が出てきている。評価項目の在り方は検討する必要がある。ボランティアでというところで、役場側はＣ評価である。養育では、支援が要するところに入っていく。スキルがある人が入っていくが、躊躇して、できる人にお願いしているが、その人でもハードルがある。その部分をボランティアでできるかというのがあり、評価見直しも必要かと思う。出来なかったが代替でやっていくとか。

事務局：コロナ禍活動できない中で、難しかった。慎重になる地域もあったが。

委　員：今回の計画、追加でプラットフォームという考え方、いろいろな視点からやっていきたいと思う。人口１万人の津嘉山であるが、参加が低かった。アンケートの結果、新しい在り方を踏まえて計画を見ていく。

事務局：社協の評価はとても辛くつけている。やったかやらないかで評価になる。第３次計画の中では、評価の考え方も見ながらやっていけたらと思う。Ｄ評価も、どうすれば取り組みを実施できるかということを考えたが、できなかったものである。アンケート調査の中で、ミニデイの参加者とか、何で困っているかと見ると、話し相手がいないというのが結構出ている。ボランティア講座でも話し相手講座がある。大学生はコロナ化ではあったが自宅を訪問して話し相手になってもらう、そういうこともやっている。計画にはないが、やろうということでやっている。入っていないので書かれていないがやっているものもある。
防災についてもコロナでできなかったとなるが、できない期間を使って研修をやっていた。次年度以降は今まで以上に質が上がっているのではないかと思う。老人大運動会の中では、防災ということを取り入れたり、役場の防災士の発案で、やった。そのようにできなくてもできる方法を考えていきたい。

委員長：評価のところ、今回はコロナの中でのもので、全国がそうであったが、その中で工夫をしてきたというのであった。手洗いうがい、基本的には高齢者は社会環境を失うとよくないというのがわかっている。外でのゲートボールは大丈夫だろうとか工夫して、生活の知恵で、やっていける地域活動を考える。国から言われてその通りやるというのでは

なく、元気のためには、どうやって行くかが必要である。
今回の見直しにあたっては、住民参加が求められる。概要にあるが、共生社会を作るためにというのが盛り込まれる。団塊の世代は２０２５年までに後期高齢者になる。国は支援を進めてきたが、地域には高齢者だけではないと、それで０歳から１００歳までの包括的支援をということとなっている。そこで重層的支援をやろうという。社協の専門職がいろいろやって対応してきたところを、これからは住民主体で地域課題の人を見つけて、対応してもらう。対応できないときは上のレベルの専門職につなぐ。そういっている。県内では沖縄市とうるま市がその準備に入っている。南風原も早い時期に取り組みしないといけない。見つける仕組みのまちづくり、自治会が南風原ではすべてに支え合い委員会ができている。今後はひきこもりをしっかりやろうという参加支援がある。高齢者の中にもひきこもりなどがあったり、こういったのを連携で対応しようと出てきている。南風原町ではこの辺りはできると思っている。行政も重層的支援に移行する、今回の第三次を作っていく中でお願いしたい。
第２次の評価で他にあるか。
では、次に進む。
今後のスケジュールについて説明をお願いしたい。

７．事務局よりスケジュール説明

委員長：これで閉会としたい。

８．閉会